

平成4年



秋田県立
能代高校
東京同窓会

会報

No. 6
事務局
〒164
東京都中野区中央5-7-1
株友和
TEL.03-3383-2111



校歌

文学博士 藤村 作詩
東京音楽学校教授 岡野貞一作曲

一、そのかみは、城濶く

尽きぬ流水米代の

水に我等の聲は、

若し生命と讃へ、

若し生命と讃へ、

二、み空にひびく日本海

沖より寄す巨濤の

巖つんで、勢に

強き力を学び、

強き力を学び、

三、平和の相樽子山

常盤の緑旭日に

映えて我等の麗は、

清き操とたぐへ、

清き操とたぐへ、

四、薫り高き学び舎の

象徴をかかげひたすらに

学びの道と究め、

奮、松陵我が健児

奮、松陵我が健児

平成四年能代高校東京同窓会総会開催

平成四年十月二日・午後五時
於・茗溪会館

第一部 講演会
第二部 総会
第三部 懇親会

●講演者紹介●

小林 肇氏

今日はお忙しい中をお集まり頂きましてありがとうございます。恒例の同窓会総会で第一部が講演会、第二部が総会の議事、第三部が懇親会となっております。

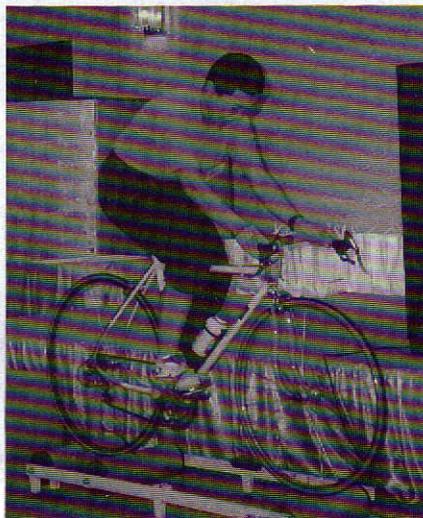
第一部の講演会ですが、今日はみなさんすでにご存知の新制三期卒業の鈴木裕美子さんをお願いいたしております。彼女はこの度バルセロナ・オリンピックの自転車ロードレース競技に参加しまして、過酷な競技にもかかわらず実力を存分に発揮してまいりました。彼女は非常に熱心な方で、私どもが彼女を知ってから何年もの間、この自転車競技一筋に打ち込んで来ております。日本ではあまり陽の目を見ない自転車競技に、情熱を注ぎ研鑽を積み重ねてきたわけですが、今回見事にオリンピックの代表としての栄誉を勝ち取られました。

そのことについて、あまり時間もありませんので簡単に、成績云々ではなく、バルセロナ・オリンピックへ出場したこと、そこに至るまで数々の努力をしてきたことについてご披露して頂きたいと、無理なお願いをいたしましたところ、快くお引き受けくださいました。どうぞみなさん、この後彼女の体験と努力の一こまをご静聴頂ければありがたいと思います。それでは鈴木さん、よろしくお願いいたします。

第一部 講演会

南欧の炎天下を銀輪で疾駆して

バルセロナ・オリンピック自転車競技選手
鈴木裕美子さん 新制三期



みなさん今晩は、鈴木裕美子です。高い所からたいへん失礼ですが、少しの間お時間を頂きます。お時間は十五分ほどというところで、講演会などと申されましても、私は専門が自転車の競技選手です。走ることはこの十数年間ほとんど毎日やってまいりましたので、自転車をこぐのは苦もなくやれるのですが、口を動かして話すのは非常に不得手で、みなさまのお耳さわりになるかもしれません、なにとぞよろしくお願いいたします。

まず最初に、今回のオリンピック出場に際しまして、すぐさまこの会の事務局を始めみなさんから多大なお祝いと支援を頂きましたこと、また、帰ってからもこのようにすばらしい報告のチャンスを頂きましたこと、また長い間応援を続けて頂きましたこと、これからもよろしくという気持ちも込めまして、本当にありがとうございます。

バルセロナについて一言ということですが、オリンピックでの成績は五十位で、一応着に入れたのは本当に幸いでしたが、同時に世界の壁の厚さをいやというほど思い知らされてまいりました。一口に言いますと、オリンピックというのは、各国のすべての競技の一流選手が集まる一種のお祭です。バルセロナという街に関する情報は、選手村の中にあるかぎりではわかりにくいところもありましたが、とても暑い所だったということ、お祭の雰囲気はみなさんテレビなどでご覧になったかと思いますが、私にとっては夢のような場所であり、楽しく二週間ほど過ごさせて頂きました。レースのほうは先ほど申し上げました通り、自分の無力というか世界の実力を思い知らされました。もし年をとって余裕があれば、もう一度バルセロナを訪れてゆつくり心落ち着けて街の中を見て回りたい気がします。あるいは、ここではこんなレースがあったなと思いをたどるチャンスがあればいいなと思っております。

オリンピック選手になれた経験を今後どう生かすか。自転車競技を始めてから十二年ほどになりますが、まだまだ自転車競技に携わる者

としては、本当に大きな意味があつたと思ひます。自転車はみなさんも普段目にしてゐる通り、乗物として便利であり非常に身近な道具の一つです。しかし自転車競技という種目として見ると、この身近な物が急に違う意味を持つてきてしまいます。ここに実際にオリンピックで使ひました自転車を持つてまいりましたので、手にしてご覧にいられたいと思ひますので、ちよつと失礼します。……これがロードレーサーという自転車ですが、国内の予選会でも使ひ、バルセロナへも持つて行きました。えー、自転車競技の種目は、ロードレースと競技場の中で行われる種目の二つに分けられます。みなさんご存知の競輪に代表されるトラック種目では、スプリント種目というのが、プロの世界では中野浩一選手が十連覇した種目であり、四年前ソウルオリンピックの女子代表の一つの枠をめぐつて、私が橋本聖子さんと争つた種目です。そのほかタイムトライアルなどがあります。これに対してロードレースは、路上の長い距離、女子ですと世界で一番長い場合は約百キロに近い、この度のオリンピックでは八一キロという距離でしたが、これを走破するわけです。男子の場合はなんと驚くことに二百キロに近い距離で行われる種目です。私は今度のオリンピックで、このロードレースに参加しました。

この自転車が普通の実用的な自転車とどこが違うかと申しますと、自転車は足が動力源でペダルを回すことで推進するわけですが、普通の自転車の場合は踏むことによつてのみ動力を得ます。これに対して競技自転車は、ペダルを踏むときばかりでなく、引き上げるときにも動力が得られるようになってゐるのです。つまりペダルをできるだけよく回すということが重要になります。したがつて、ストライプと言ひますが、この紐でペダルに足を固定します。ストライプで縛り付けることによつて、もちろん自転車と身体が一緒になつてしまつて、非常に危ないことではあるのですが、軋ばない限り非常に速く走れるのです。この点が実用自転車とは大きな違いと言へます。また、競技場のトラックレーサーという自転車は、よくみなさんもブレーキもなにもないだらうとおつしやるのですが、その通りでして、それは走るということに頑固にできてゐるといふのでしようか、固定式になつてゐて、バックもできるのですね。ところが、ロードレーサーは実用車と似てゐるところがあつて、このように空回りもできます。ですからブレーキもついておられますし、こちらは走るのに使うということであれば、普段の生活の実用的な道具として活用することもできるわけです。ただし、お買い物に行つて大根などを乗せて帰るといふには不向きにできております。昼日中に走る、あるいは健康的な目的のためにサイクリングをするということであれば、びつたりの自転車なのです。

レースで速く走るためにいろいろな工夫がなされておられます。その一つとして、まず非常に軽くできてゐます。部品の開発に各国がしのぎを削つてゐて、ごく最近では、たとえばデスクホイールと言ひまして、円盤状になつた車輪などを使うなどの工夫がされてゐます。私の自転車はたまたま三十万円ぐらゐいますけれども、もちろん普通の自転車屋さんでは五万円代ぐらゐからのがあるそうだし、コーチでもある私の彼が自転車屋さんをやつておりますので、この用の方はよろしければどうぞ。と、これは少し余談になりましたが、最近では、少しづつこういう自転車の存在もみなさんに知られてきてゐるようです。

ちなみに私の自転車はメイドイン世田谷、純国産品で約三十万円。フレームの部分が私用に私の手足の長さに合わせて、世田谷にあるわが社に設計させたオーダーメイドで、素材は鉄のパイプ。これを非常に薄く伸ばして使用しておりますので、とても軽量です。また、軽量の中にも十分な強度が工夫されております。

だんだん時間も押し詰まつてきたようです。ちよつとここにあるローラー台という物に乗つてみたいと思ひます。ここにある機械は三本ローラーと言ひまして、よくトレーニングなどに使われる器具です。ウォーミングアップや準備体操の際、外を走り回らなくても、この上で自転車をこぐことができます。ちよつとバランスをとるのが難しいところもありますが、この上で自転車をこいでみたいと思ひます。それで最後にしたいと思ひます。これは独楽（こま）の原理と同じで、こがないと倒れてしまふので、最初の方は気をつけて乗らないと、よく落つちて怪我をしますから注意してください。……雨の日のトレーニングとか、時間を区切つた走行練習とか、慣れればいろいろな使ひ方もできますが、最初はまず落ちないように十分気をつけなければなりません。……というわけで、いろいろチヨロチヨロとやりましたけれども、慣れないことで大変申し訳ありませんでしたが、また会場でも、聞いてみたいことなどありましたら、どうぞ遠慮なくお尋ねください。今日はどうも失礼しました。

平成五年度東京同窓会総会のお知らせ十月一日（金）

午後五時開始予定 於・茗溪会館

開始時間を気にはせず気軽にお運び下さい



を破る先制タイムリーで大塚をホームに迎え入れる。

能代応援団、早くもこの試合頂きとばかりの驚喜乱舞。

1回裏(佐賀東) 2番平田、四球で出た中尾を型どおりバントで二塁へ。3番野中を2-10と追い込んだ時、中尾三盗。いさいかまわず投げ込む成田の3球目を野中スクイズ。たちまち同点に追いつかれる。

アリア、あそこで1球ウエストしていれバと、ノーヒットで与えた失点に、どこからともなくため息がもれる。

3回表 柳谷セカンドエラーで出塁。しかし、盗塁失敗。大塚三塁強襲、2本目の二塁打。さらに加藤三遊間突破のヒットで続くが、本塁を突いた大塚本塁前タッチアウトで無得点。

あの盗塁失敗がなかったら、と野球部父母会会長夫妻(柳谷選手のご両親)もチヨッピリ肩を落とす。しかし、押し気味に進める味方の試合展開に応援団はますます意気盛んだ。

3回裏 中尾の大飛球をセンター池端ダイビングキャッチ。平田に初ヒット。初球盗塁を許すが、続く野中のヒット性の当たりを、セカンド諏訪、またまたダイビングキャッチ、一塁送球間一髪アウトでチェンジ。

内外野の相次ぐファインプレーに、ますます応援の熱が入る。

敵の攪乱戦法の術中にはまる

5回裏 この回の先頭打者小笠原セカンド前の内野安打すかさず二盗、キャッチャー加藤の送球が諏訪の頭上を大きく越して、小笠原三塁進塁。まだノーアウトだ。何とか抑えての願いも空しく、角のセンターフライで1点の先行を許す。1点ぐらいドンマイ、ドンマイ。だが、佐賀東の揺さぶり戦法が続く。バントヒットで出た納富を中尾バントで二塁に送る。平田のゴロをファースト菊地エラー。2死ながら走者一・三塁のピンチ。なんとこの時、ダブルスチール。加藤の二塁送球の間に、三塁走者生還。成田投手はまだヒットらしいヒットは、1本しか与えていないのに、点差を2点と広げられる。

バントと盗塁の揺さぶりに、やや浮き足立った感じの味方ナインにハッパをかけるOB応援団。最後の勝利を信じる高校生応援団は、必死の応援歌で声援する。

7回表 1死後、菊地ライト線ヒット、好走よく二塁打とする。こちらよりもうまい野球するとは言っても、やはり高校生。佐賀東だつて平常心ではないのだ。サア、チャンスだ。向こう

さい先よい 先制も束の間

十四年ぶりに甲子園の土を踏んだ能代高ナインは、オリックス・ブルーウェーブばりのユニフォームに身を包み、八月十四日午前十一時、対佐賀東高戦のプレーボールを迎えた。甲子園上空は三日ぶりの晴天。灼け焦がすばかりの炎暑が、三塁側に陣取った母校応援席の熱気に油を注ぐ。なにしろ今年の能代高校はスポーツの当り年。自転車鈴木裕美子選手のバルセロナ・オリンピック出場に続けとばかり、野球部も硬・軟取り揃えての全国大会出場である。

1回表(能代) 池端・柳谷凡退の後、主砲大塚レフト線を痛烈に抜く二塁打。佐賀東角投手の暴投で三塁進塁。加藤四球の後、成田三遊間

能代 4 100000102
佐賀東 3 100020000

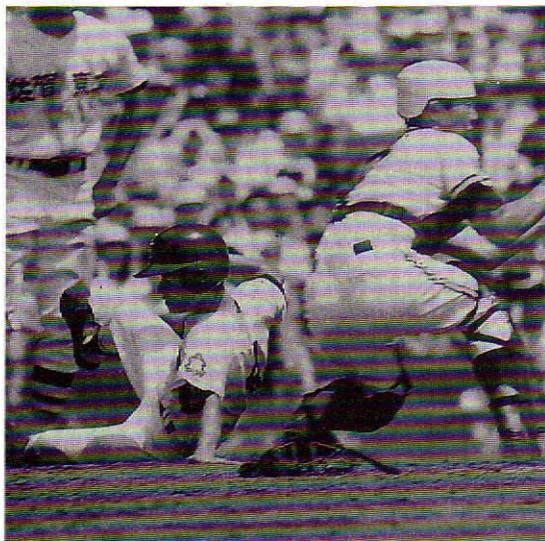
【能代】	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(中) 池端	5	0	0	1	三振	右飛	三振						
(右) 柳谷	5	0	0	0	二ゴ								
(左) 大塚	4	1	2	0	三振								
(捕) 加藤	3	0	1	0	四球	三振							
(投) 成菊	4	1	2	1	三振								
(一) 池地	3	1	1	0	二ゴ	三ゴ							
(三) 福司	4	0	1	0	三振								
走二	川原	0	1	0	三振								
(二) 根	原	0	0	0	三振								
(遊) 三根	市	0	0	0	三振								
(遊) 土	訪	2	0	0	二ゴ	三ゴ							
	崎	4	0	1	三振								
	崎	0	1	1	三振								
	崎	0	1	1	三振								
残塁	7	34	4	8	3								

【佐賀東】	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(中) 中尾	3	1	1	0	四球	中飛	三振						
(捕) 野田	4	0	2	0	三振								
(遊) 平中	4	0	0	1	二ゴ								
(右) 川原	4	0	1	0	三振								
(左) 石井	3	0	0	0	二ゴ								
(一) 永石	3	0	2	0	四球	三振							
(三) 小笠	原	3	1	1	二ゴ	三ゴ							
(投) 角	2	0	0	1	三振								
打	片	1	0	0	三振								
(二) 納	富	2	1	1	二ゴ	三ゴ							
打	塚	1	0	0	三振								
	本	1	0	0	三振								
	本	1	0	0	三振								
残塁	9	30	3	8	2								

【二塁打】大塚 2 永石 菊地 成田
【盗塁】池端 川原 中尾 2 平田 4 小笠原
納富 3 【併殺】佐賀東 1 【失策】能代 2 佐賀東 3 【暴投】角 2

投手	回	打者	安	振	球	責
成田	9	39	8	4	4	1
角	9	38	8	5	3	3

【審判】(主)夏目 (塁)田中 松田 久保田



も浮き足立って来た。福司サイドゴロ。サイド小笠原この処理を過って、走者一・二塁。諏訪のゴロをショート野中エラー。打者土崎の時、角投手の暴投で菊地生還。1点差に迫り、なおもワンアウト走者二・三塁。一打逆転のチャンスだ。ここで、沸かなければ応援団ではない。もちろん応援は沸きに沸いた。いいぞ、いいぞ、能代。カッシー、カッシー、土崎。ここで一発、池端。しかし、応援空しく、土崎三振、池端三塁ゴロで二塁走者諏訪タッチアウト。アー、逆転のチャンスははかなく消えた。

さーア、あと1点だ。まだまだいけるぞ。絶好の逆転機を逃した能代のOB応援団は、少々ヤケ気味。時折だれかが意味不明の奇声を発する。

7回裏 デッドボールの納富の二盗・三盗。しかし、1死後、平田のスクイズは成田の好守ではばみ、納富を本塁でタッチアウト。平田盗塁。ここで成田の投球は百球を超えた。

わが三塁側のコンバット・マーチがありきたりで少々あか抜けないのに引き換え、一塁側応援団が演じるフレンチ・カンカンのメロディーがヤケにスマートに聞こえる。

8回裏 先頭の川原田センター前ヒット。石井の送りバントで二塁進塁。さらに、永石の一・二塁間ヒット。二塁走者勇躍ホームを突き、あーア、ここでダメを押されたかと思つたこの時、ライト柳谷の見事なバックホームが佐賀東の追加点を封じた。

好守の連続で何とかしのぐものの、当初押し気味だった試合も、4回以降はさっぱり。佐賀東1点のアヘッドに気の短いOB応援団の中には、早くも「寄付返せー、キフカエセー」コールを始める者もいる。しかし、このコールはもちろんみなさん、ご存知の能代標準語。バッター成田君には「キシカイセイ、起死回生」

と聞こえたかどうかは知らない……。

堂々横綱のうつつちやり劇

9回表 成田センター前にポトリと落ちるヒット。一瞬の隙を突いて一気に二塁打とする。菊地の送りバントで三進。続く福司は三塁強襲のヒットを放ち、代走川原に代わる。川原すかさず二塁盗塁。諏訪四球で1死満塁。

こうなると、さつきの「寄付返せー」コールはどこへやら、寄付も現金ならば、応援も現金。一転して一気に逆転を期待する狂気変わる。

これまでノーヒットの土崎ライト前ヒットで、成田同点の生還。池端セカンドゴロでダブルプレーかと思つるも、駿足池端一瞬一塁セーフ。ダブルプレー崩れの間に、つい先頃亡くなられたお母さんの遺影の声なき応援が後押ししたか、川原が逆転のホームを駆け抜けた。

甲子園への道のり

自主性尊重の反管理野球で
晴れの甲子園出場を勝ち取る

ヤッター、やったー、やりました。これぞ、能代高野球の神髄。敵をぎりぎりまで喜ばせておいて、最後にひっくり返す（本当かな?）。名前も知らない者同士が抱き合つて喜ぶ。誰だ? どこのどいつだ。出てこい! つい今しがた「寄付返せー」と怒鳴つたのは。今まで生きてきた中で、いちばん幸せ、という顔をしているあの人だな、きつと。上申書ぐらいいではすまされんぞ、つたくモー。

9回裏 セカンド諏訪がサードに回り、セカンドに根市が入る。代打の2者をなんなく封じるも、粘る佐賀東高中尾ライト前ヒット。平田サード諏訪の前にセーフティバントヒットを決める。さらに中尾・平田のダブルスチールも成功して、走者二・三塁。一打逆転のピンチもピンチ、大ピンチ。現役応援団必死の声援。OB応援団かたずを飲んで成田の投球を見守る。しかし、さすが、東北球界にこの人ありと言われる快腕成田。佐賀東の主砲野中をライトフライに討ち取つて、試合終了。

勝つた、勝つた。勝つてしまった。何がなんだかわからず誰かれかまわず抱きついて飛びはねる。知る人ぞ知る、知らない人は知らなくてもいい。これぞわが校の甲子園初勝利なのだ。昭和三八年の勝利は西宮球場。四度目の出場で、始めて甲子園に流れる「そのかみはるか域闊く〜」なのだ。ポールを滑るように昇る校旗も、あらためて見るとなかなかいい。何人と握手をしたのだろうか。手が腫れ上がってしまった。

振り返れば、反省すべき点は多々ある。しかし、にもかかわらず勝つた君たちは強いのだ。勝つというこはいいことだ。勝つて大いに驕るべし。

七月十八日、八橋球場で開会式が行われた秋田県予選。県内屈指の本格派成田、速球派村上の二本柱を擁し、春の県大会優勝の実績から、優勝候補の筆頭とみなされていた。しかし、二十日の初戦対大曲工高こそ十五対二、成田が十一三振を奪い、7回コールドと軽く一蹴したものの、三回戦以降は、やや投打がかみ合わず、予想外の苦戦の連続。チーム打率は三割三厘と不振。頼みの投手陣も予想外の失点を重ねた。

だが、この苦戦がチーム全体を犠打、盗塁をからめた細かい野球ができる試合巧者に成長させた。三回戦は、粘る鷹巣高に十本の長短打で七対四と競り勝つ。

準々決勝の対西目戦は、苦戦も苦戦大苦戦、チャンスに決定打がなく、8回まで一対二とリードを許し応援席を冷や冷やさせた。9回一死満塁、七番柳谷が初球を左中間にタイムリー三塁打、結果は五対二ながら薄氷の勝利だった。続く準決勝。春季大会で3試合連続の特弾を放つた大塚が、夏の予選にきてやや不振。代わって福司がホームランをたたき、好守の連続で本荘高の追撃を押さえた。

迎えるはいよいよ決勝戦。対する相手は前年度に苦杯を喫した金足農高。もうあと一歩という気が先に立つのか、またまた苦戦。敵もさる者、簡単には甲子園への道を明け渡してはくれない。池端の二塁打でついに勝ち越し。最後は成田投手が本領発揮。最後の打者を、キャッチャーフライとファーストフライに討ち取り、追いつがる金足農を六対五とねじ伏せた。

少年の日の 六十キロ行軍追体験

戦時中の一九四三年、能代中学一年生だった信昌哉さん（六一）は、軍事教練の十六里行軍で米代川の周辺を歩かされた。十一月三日、午前零時に出発、片道三十キロの往復。十二時間以内に戻らなければならぬ。遅れば落第が待っていた。

「体力が絶対の時代。とにかく時間内に戻らなければと必死だった」

足袋に草鞋。少しでも足のマメを防ぐと草鞋の紐に布を巻き付けた。約九時間で完歩。帰りの列車では曲げた足がもたらさないほど、疲れていた。

戦後もよく歩いた。北大の予科当時は、食糧難の時代。隣村の農家まで買い出しに歩いた。北海道の隣村はゆうに五キロはあった。じゃが芋や砂糖それにタバコを少しリヤカーに積んでひたすら歩いた。

少年時代は体力増進に、青年時代は生きるために歩いた。

「今はもう一キロ離れていれば、ついバスに乗ってしまう」

時も同じ十一月一日〜三日、埼玉県比企丘陵を舞台にして行われた第十五回日本スリーデーマーチに、信さんは参加した。三日間の合計距離は少年時代の行軍と同じ六十キロ。

五年前に定年を迎えた信さんは「なにか体がうずきだして。もう一度歩いて、今の自分を確かめてみたくなった」

ゴールも間近な川べりで、信さんは思った。「少年の日の六十キロ行軍は、オレの財産だね」と。

はごめんだ。

4回裏 岡嶋一・二塁間を抜くヒット。浜口スリーバントを成功させて、走者二進。成田暴投で岡嶋三進。成田2球連続の暴投で岡嶋生還、追加点を許す。

やはり雨の影響か？ ここは落ちつけ、ナリタ。なに、2点ぐらいどうということはない、と私が打席に立つわけではないので非常に無責任なゆとり論評。

5回表 加藤三塁線を破る二塁打(能代初ヒット)。成田送りバントに失敗、飛び出した加藤二塁でタッチアウト。依然3人ずつで終わる。じっくり構えるのもいい。だが、限度があるぞ。向こうは試合巧者。なにしろ、弱きはくじ強きには戦わず道を譲る、あの名うての明德義塾と同じ四国の高校なのだ。あの緩いカーブに手こずる君たちではあるまい。じっくりボールを見て力強くたたけ、とは監督の言うこと。私が出しやばることではない。そろそろ応援席にいらだちの様相。

6回表 2死後、第1戦の殊勲者土崎がレフト前にヒット。が、後続なし。

6回裏 仲村のショートゴロを土崎絵に描いたようなトンネル。続く榎原前守準備の三塁頭上をワンバウンドで越す二塁打。岡嶋四球で、ノーアウト満塁。絶体絶命のピンチだ。しかし、さすがは成田、浜口の初球スクイズを難なくはずし、三本間にランナーをはさみ、まず一難去つたかに見えたが、なんとキャッチャー加藤、三塁に大悪送球。仲村に続いて榎原までがホームインしてしまった。ここぞという時にかさにかかつて来るのが試合巧者。2死後、馬生のレフト線一塁打で岡嶋生還。5点のアヘッドを許す。

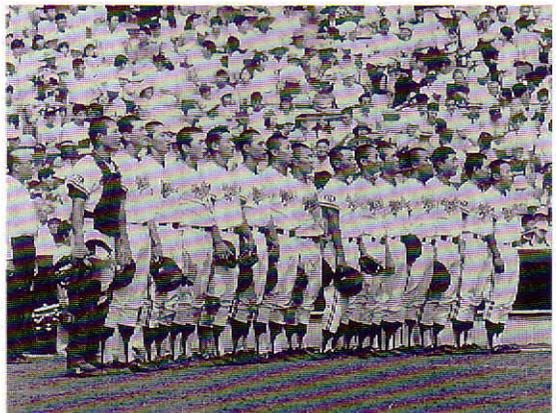
いかに強打の能代高と言えども5点のハ



ンデイはきついろ。横綱と言えども、十面に寄り切られることがないとは言えないのだ。それが勝負だ。そろそろ、ここ一で一発、ノシロ、といきたい。という気持ちを感じてか、わが校応援団、いよいよとっておきの「東西南北」の演奏を開始する。この演奏とともに、県大会での、西目高戦の奇跡の逆転が始まったのだ。ブルペンでは、まんをじしていた母校期待のもう一人のエース、村上君がピッチング練習を始める。

これぞ男と男の勝負を見た

7回裏 1死後、田中の三塁ゴロを福司悪送球。ランナー二進。迎えるは四国屈指の強打者仲村。よき敵ごさんなれと成田、真つ向からストレートで押しまくる。敵もさる者、成田の剛球をフ



アールでかわす。連続ファール十球を数える第十七球目、ついにセンター前にヒットを許す。田中生還の6点目。勝つもよし、負けるもまたよいではないか。これぞ男と男の勝負なのだ。空前絶後(?)の敬遠作戦をとった四国方面の監督は、この力の対決をどう見たであろうか。この後力尽きたか成田、榎原にレフト線一塁打され、この日始めての自責点となる追加点を許す。

連続十球のストレートとファールの応酬は見えていて迫力があり、一球もかわそうとしない成田君の気迫はすばらしかった。「松陵健児魂いまだ健在なり」の感を強くした(私にそんなものがあつたかどうかは、記憶にございません)。

8回裏 投手村上、成田はライトに回る。村上持ち前の速球で、簡単に3者凡退に押さえる。9回表 土崎この日2本目のヒットを放ち、ノ

アウトで出塁する。代打三戸のショートゴロで土崎二封。代走川原。代打根市キャッチャー・ファールフライ。東北の主砲大塚レフトフライで、ゲームセット。



勝負は水ものと言う。この日は雨で第2試合以降が中止になった。結果は、7対0の完敗だった。5失策、2暴投と自分たちさえ予期せぬ不振だったかも知れない。「負けて覚える相撲かな」と言う。野球だって同じだ。彼我の力の違いを知り、練習量の差を知ってこそ始めて、今日の敗戦が明日の能代高の歴史のかてとなる。とにかく、甲子園で1勝を挙げ、母校の校歌を全国に鳴り響かせた。君たちは本当によくやった。正々堂々と戦い立派に勝ち、いさぎよくに負けた。甲子園を駆けめぐった君たちだけではない。就任わずか数か月でナインを甲子園に引き連れてきた納谷監督、レギュラーをあきらめ野球部の縁の下の力となつて、野球部新聞で選手を励ますことに心を砕いたマネージャーの小林央君、ほかみんなよくやった。

本当にありがとう。

われわれは心から礼を言う。

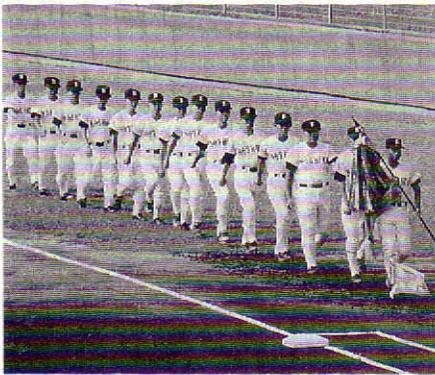
第二十七回全国高等学校軟式野球選手権大会 屈指の強豪とあたり 初戦敗退

六月の強化合宿を経て迎えた夏の県大会。その前の秋季東北大会、そして春季県大会を制しながら、夏の県大会では、よもやの一回戦敗退を喫した軟式野球部の全員の胸に「今年こそは必ず明石球場に行く」という決意がみなぎっていた。

対秋田工高戦を七対一、对本荘高戦を三対一で連破し、奥羽大会出場を決めた。盛岡の岩手県宮球場で開催された奥羽大会では、開会式直後の第1試合で、澤田投手が十一個の三振を奪いノーヒットノーランを達成する快投を演じ、盛岡商高を二対〇と完封した。

準決勝の盛岡一高戦、決勝の秋田商高戦を、いずれもたつた一度のチャンスを得点に結び付け、両試合とも二対〇の接戦をものにして、ついに念願の明石球場への出場を決めた。

全国大会優勝以来十年、明石球場から遠ざかること六年。思えば長い道のりだった。



全国大会は八月二六日から、兵庫県明石市、高砂市で幕が切つて落とされた。二四日の抽選会で、初戦の相手は、北九州代表の四日市高と決まった。このところ二年連続で準決勝に進出している強豪中の強豪、今年も優勝候補の筆頭と目されている。

二六日、予定よりも一時間遅れで試合開始。予想通り、四日市高の動きは俊敏、やはり鍛え抜かれた好チームである。

しかし、澤田投手も好調で、3回までに三振八個を奪う力投を見せた。4回表、3本の長短打で2点を先制し、ベンチのムードは盛り上がり、応援席は沸いた。

だが、初回から飛ばした澤田に6回あたりから疲れが見え始め、7回つかまつて、3点を奪われ逆転された。続く8回にもランニングホームランで追加点を許した。必死の反撃空しく、試合は2対4で終わった。

抽選によりこの大会を制したチームと初戦で対戦する不運に見舞われたが、選手は臆することなく立派に戦い、だれもが認める好試合を演じたのである。



記念碑除幕式風景、神馬会長挨拶

第二部 総会

●総会開催の挨拶●

秋田県立能代高校東京同窓会会長

小林 肇氏 旧制十九期



えー、みなさん今晚は。お忙しいところお集まり頂きまして誠にありがとうございます。この同窓会総会は、毎年十月の第一金曜日に開催することにして久しくなりますが、昨年は十周年ということもありまして、久しぶりに土曜日に開催しました。実は今年も土曜日のほうがよかつたのかな、と思っていることが一つあります。昨年は、学校側との連携で、新たな会員の激励会を兼ねました結果、昨年春に卒業されました若い方にたくさん出席頂きました。今年も同じ企画を組んでいたのですが、新卒者は学生さんが非常に多い。本日は金曜日ですのでその方々が、まだ出席できない状況にあるのかと思います。多分これからご出席くださるものと思います。ほとんどの方からご出席の返事を頂いておりますが、時間的な問題があったのではなからうかと、こちら側の不手際をまずお詫びいたします。

本日恒例の同窓会総会を開催するに当たり、ご案内を差し上げましたところ、本日にたくさんの方々に参加頂きましたこと、誠にありがとうございました。特に能代から遠路わざわざご来臨

くださいました神馬同窓会会長を始め、椎名学校長、同窓会事務局の方、本日歓迎の新卒会員の担任の先生たちにご参加頂きましたこと、心から感謝いたします。さらに本年は招待の恩師といたしまして、浅野洋一先生、五十嵐研一先生をお招きいたしましたところ、早速ご快諾を頂き、本日こちらにご足労を願っておりますこと、誠にありがとうございます。さらには参議院議員の佐々木満先生も後ほどお見えになる予定でございます。例年ここ数年、同郷の高校ということで呼びかけさせて頂きました能代北高同窓会松蔭会の東京支部、能代工業高同窓会東京支部の東籟会、能代商業高校同窓会東京支部、能代農業高校同窓会、それぞれのみなさまにご来臨頂きましたこと、誠にありがとうございます。

私もはかねがね同窓会はどうあるべきかについて、板倉前会長さんから十五年間もの間教育を受けてまいりました。同窓会というのは、利益団体でも事業体でもありませんので、その運営は難しいものだと感じております。なんと云っても、会を支えるのは会員のみなさんの熱意でございます。こうしてわざわざお集まり頂き、一年間無事な顔をお互い見合せて、日ごろの情報交換をすることを何よりの楽しみとさせて頂いております。しかし、この会は学校が中心でありまた郷里が土台となるものですので、学校の活気が非常に大事であると考えております。申し遅れましたが、神馬同窓会会長がこの春の叙勲で勲章を受けられました。ここにあらためてお祝いを申し上げます。本当におめでとうございました。さらに学校関係のについては、椎名校長からお話があるとは思いますが、今年十四年ぶりに母校野球部が甲子園に出られたことは、久々のクリーンヒットと、われわれも胸のすく思いがいたしました。今年はこのように活気のある姿がいろいろ見られました。このようなことも、同窓会を盛り上げていくうえで非常に重要です。母校と同窓会は切っても切れない関係にあります。母校の活動イコール同窓会と考えております。今後ますます母校の活躍を祈りたいと思っております。一年一度の同窓会となりますと、いろいろお話し上げたいことがございますが、この会を盛り上げるのは会員のみなさまでございます。みなさまの熱意がイコール同窓会の盛り上がりということでございます。私が昨年版倉会長の後を継いで、誠に不足ながら会長役を仰せつかっておりますが、こうやって同窓会総会を開催することができたのは、非常に熱心に会運営に当たって頂いた役員幹事の方々のおかげです。私の出席率はあまりよくありませんでしたが、同窓会の運営には幹事の方々が、いろいろ協議を重ねられました。この後、アトラクションを含めていろいろな催しを考えておるようでございます。何分にも、収益事業ではありませんので、限られた予算の中で非常に苦勞された模様でございます。いずれにいたしましても、幹事の方々が非常に頑張ってくれていますことを、ここで報告させて頂きます。社会的には、不景気と言われ、いろいろ厳しい状況下にあるようですが、今夜はそのことをすべてを忘れ、故郷・学校時代を語り合ひまして、楽しい一時を過ごして頂ければと思います。

どうぞ最後まで、ごゆっくりおくつろぎ頂くことをお願いいたします。私の挨拶にかえさせて頂きます。

どうもありがとうございました。